

# 展示資料のまとめ

## 入門や興味のきっかけに

「からだのなか」は何となく気になるけど、いきなり解剖図は見たくない、そんなときは気楽にと著者の語りに耳を傾けるのはいかがでしょう。

著者が読者に話しかけるような体裁のものを展示しています。

－『トリセツ・カラダ：カラダ地図を描こう』，宝島社，2009

－『物語ひとのからだ：わかりやすい解剖組織学』，金原出版，2004

－『「図説」人体博物館』，筑摩書房，1995

## 全身を扱うアトラス（図譜）

『トリセツ・カラダ』で次のステップと紹介されていた『からだの地図帳』、図版に定評のあるプロメテウス、学生によく利用されている人体の正常構造と機能シリーズ、生理・解剖・疾患と網羅的に解説する『みえる人体』をピックアップしました。

－『プロメテウス：解剖学コアアトラス』，医学書院，2010

－カラー図解人体の正常構造と機能シリーズ，日本医事新報社

－『みえる人体』，南江堂，2009

－『新版からだの地図帳』，講談社，2013

## 部位に注目した資料

「からだのなか」という言葉からは「全身」や「腹部」を想像されるかもしれませんが、しかし、脳だけ、骨と関節だけ、顔だけ、というように部位を限定しても1冊の本となります。

良い意味でのマニアックさを感じてもらえるような資料を選びました。

－『ぜんぶわかる脳の事典』，成美堂出版，2011

－『グラフィックスフェイス』，クインテッセンス出版，2013

－『骨と関節の不思議』，東海大学出版会，2000